

工等の学習の補助もしてくださっています。図工が終わった後、空き箱で作ったペンギンを見せてくれたときのI君の笑顔は、とても印象に残っています。本校に来て6か月のI君。今ではひらがなの読み書きができるようになり、漢

字にも興味をもち始めました。学校生活に慣れてきて、明るい表情で生活しています。学生ボランティアの方への感謝の気持ちでいっぱいです。これからもよろしく願いいたします。

令和3年度 子ども国際理解サマースクール報告

内なる国際化

国際学部 3年

下村 由紀那

私は今回、イベントの司会と第一部の「日本の中の外国」というテーマで、日本にどのくらいの外国人が住んでいて、どこの国から来ている人が多いのか、また栃木県内ではどのくらいの外国人児童生徒がいるのかなどをクイズ形式にしなが、身近に「外国」「国際」があるということをお話させていただきました。クイズを進行していく中で、子どもたちに「なぜその回答を選んだのか」聞いて回っていました。「なんとなく選んだ」という答えがほとんどでしたが、中には「テレビや授業で聞いたことがある」、「外国に興味があるから知っている」、「KPOPが好

きだからコリアタウンは知っている」など、私の予想よりはるかに外国に興味を持っている子どもたちが多かったことが驚きでした。休憩時間に子どもたちに「同じクラスや学校に、どのくらい外国にルーツを持ったお友達いるの?」と聞いて回ったところ、ほとんどの子どもたちが「1～3人はいる」と回答していて、改めて栃木県内の外国人児童生徒の多さと、これが「外国」を身近に感じる理由の一つだと知りました。(初出:『令和3年度子ども国際理解サマースクール記録誌』)

より広い世界へ

大学院地域創生科学研究科 2年

崔 敬 恩

今回韓国の紹介を担当しました崔敬恩です。私は韓国から来た宇都宮大学院の学生でありながら、二人の子供の母親です。サマースクールの参加者が自分の子供と同じ小学校4～6年生という話を聞いて、単純に韓国を知って終わるのではなく、これを始めに楽しい!もっと知りたい!に繋がるきっかけになって欲しい気持ちを込めて紹介内容を構成しました。自分の経験から見ると、海外で自分を紹介するには、相手に自分の国について教える必要が多くありましたので、日本を意識しながら私からの韓国紹介を理解するよ

うに、韓国と日本を比較紹介しました。日本の多文化を身近に理解できるように日本にいる外国人(私や私の家族)も自己紹介を通して取り組みました。韓国の同級生の話をしたり、韓国人のお友達に使えるような韓国語の挨拶練習もしました。最後の質問コーナーには子どもたちから予想よりも多く質問があつてとても嬉しかったです。これからも子供たちにより広い世界への多様な関心が芽生えることを期待します。

(初出:『令和3年度子ども国際理解サマースクール記録誌』)